

第十一回 九州戯曲賞 最終審査過程

九州地域演劇協議会まとめ

■ 最終審査日時等

令和6年7月13日（土）福岡市内会場

■ 最終候補作品（5作品）

日下渚	（大分県大分市）	『かぼす咲く』
伊藤 海	（宮崎県宮崎市）	『island』
田村 さえ	（福岡県福岡市）	『Aliens』
升 孝一郎	（福岡県福岡市）	『よりよきな日』
到生	（福岡県福岡市）	『かみがたりぬ』

■ 最終審査員

中島かずき 横内謙介 岩崎正裕 桑原裕子 幸田真洋

■ 審査結果

大賞 日下渚 （大分県大分市） 『かぼす咲く』

■ 授賞方針等

- ・大賞作がでた場合、原則として他の賞は出さないものとする。
- ・大賞作の水準に達する作品がない場合は、大賞なしとする。
- ・大賞作がない場合、佳作・奨励等の賞を出すことが出来る。

■ 審査過程

各作品について、審査員からの講評を行う。

『かぼす咲く』(日下 渚／大分県大分市)

母の死をきっかけに実家に戻った心平。幼馴染の女性が息子を残して姿を消し、その子と夏を過ごす物語。

後味が心地よく、優しい気持ちになれる。方言の使い方が巧みで、生活感が豊かに描かれている。実感を素直に表現しており、温かみを感じられる。偶然が重なる展開が多いが、完成度は高く、物語の展開も楽しめる作品という評価があった。

『island』(伊藤 海／宮崎県宮崎市)

宮崎、東京、北海道。それぞれの場所で、小説家、俳優、VTuber など、多様な人々の日常を点描した作品。

この作品は、複数の場所と登場人物を軸に、それぞれの日常を描いた作品だが、会話の面白さや登場人物の成長など、肯定的な評価が得られている一方で、物語の繋がりが弱く、物足りなさを感じるという意見もあった。

『Aliens』(田村 さえ／福岡県福岡市)

小説を書く女子高校生が吃音のある同級生と交流を深めていくストーリー。小説では、宇宙船の乗員とAI との会話も舞台と並行して進んでいく。

構成や設定の使い方がうまく、高校生という青春のカタルシスを感じられて随所にある劇的な展開にワクワクするという意見もある中、終盤にかけて急いでしまった感じがあり、無理に作らず自然な流れでの着地点を見つけられていたらという声があった。

『よりよきな日』(升 孝一郎／福岡県福岡市)

彼氏から精神的な圧迫を受ける主人公が、突然現れた隣室の不法滞在者に助けられる。入管職員もまじえて話は進み、主人公は不法滞在者を救う決断をする。

外国人と日本人の登場人物の暴力という言葉の意味の違いなど、冒頭のシーンには審査員から高い評価があった一方で、面白い悪役がいるにも関わらず権力側の構図を二つ出してしまったことが惜しい。起承で終わってしまった、語るべきはここからなのではという見方があった。

『かみがたりぬ』(到生／福岡県福岡市)

古事記の編纂を題材とした脚本。資料が消失し困難を極める中、歴史を記憶する踊り巫女は、武人である主人公に戦の悲惨さを伝えながら物語を紡いでいく。

構造が分かりやすく、迫力があって読んでいて肉体を感じるようなダイナミックな作品という評価がある中で、古事記という題材を使って何を書きたかったのかが分からず、登場人物に魅力が持てないまま終わったといった指摘も出た。

ここで第一回の投票を行い、休憩に入ってよいか司会から審査員への確認が行われたが、投票前にまだ討議を続けたいという意見に沿った進行とすることになった。

(休憩)

休憩後には、各作品についての評価を深める議論が行われた。

議論の流れは、『かぼす咲く』『island』の2作品について絞り込まれていき、2作品を中心として、さらに議論を行い、1回目の投票を行った。

『かぼす咲く』 ○4票、△1票

『island』 △3票

『Aliens』 △2票

『よりよりの日』 △4票

『かみがたりぬ』 △1票

この投票結果を見て、最多得票作品である『かぼす咲く』を大賞とすることで全審査員の意見が一致したため、同作品を大賞作品として決定した。